



第3回 エズラ・ヴォーゲル記念フォーラム アジア研究の過去・現在・未来 (そのⅢ)

2025.

開催日/ **7.12** (土)

参加無料
要申込
日英同時通訳

時 間/ 12時30分～17時00分 受付開始/ 12時00分

会 場/ 愛知大学名古屋校舎 グローバルコンベンションホール

オンライン配信/ Zoomビデオウェビナー

主 催/ 愛知大学
共 催/ 中日新聞社 主 管/ 愛知大学国際中国学研究センター (ICCS)
後 援/ 愛知大学教育研究支援財団 愛知大学同窓会 一般財団法人霞山会

プログラム

第一部 名誉博士号贈呈式・記念講演(12:30～14:00) 総合司会 田中英式(本学教授/ICCS運営委員)

- ・開会の辞 広瀬裕樹(愛知大学理事長/学長) 司会 加納寛(愛知大学常務理事/副学長)
- ・趣旨説明 李 春利(本学国際中国学研究センター所長)
- ・祝 辞(ビデオメッセージ) 林 芳正(内閣官房長官/衆議院議員)
- ・名誉博士号贈呈式
～故エズラ・ヴォーゲル教授、スティーヴン・ヴォーゲル教授に対して愛知大学より
- ・記念講演Ⅰ 「エズラ・ヴォーゲルの研究方法について」
シャーロット・アイケルズ(Charlotte Ikels、Case Western Reserve University 名誉教授)
- ・記念講演Ⅱ 「父の視点から見た米日中関係について」
スティーヴン・ヴォーゲル(Steven Vogel、カリフォルニア大学バークレー校教授)

第二部 基調講演・パネル討論(14:15～17:00) 司会 佐藤元彦(本学教授/ICCS運営委員)

- ・基調講演 「ヴォーゲル先生に学んだこと」
船橋洋一(国際文化会館グローバル・カウンシル・チェアマン)
- ・パネラースピーチ
デビッド・ヴォーゲル(David Vogel、New England熱傷生存者会名誉会長、ヴォーゲル氏長男)
演題「ヴォーゲル一家の日本での思い出－幼少期の回想」
イブ・ヴォーゲル(Eve Vogel、マサチューセッツ大学准教授、ヴォーゲル氏長女)
演題「世代を超えて伝えられるエズラ・ヴォーゲルの価値観」
リチャード・ダイク(Richard Dyck、ハーバード大学アジアセンター顧問)
演題「競争相手を必ずしも敵にする必要はない」
- ・パネル討論&質疑応答 モデレーター：李 春利
講演者・パネリスト全員+塩山正純(本学国際コミュニケーション学部長/前図書館長)
- ・総括 川井伸一(ICCSフェロー、愛知大学前理事長/学長)
- ・閉会の辞 鈴木孝昌(中日新聞社取締役/名古屋本社代表)

◆定員/会場200名、オンライン500名(定員になり次第、受付終了)

◆申込締切/7月8日(火)まで

◆参加申込方法:ICCSホームページにて

<https://iccs.aichi-u.ac.jp/event/entry-5028.html>



<お問い合わせ> 愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)事務室

〒453-8777 愛知県名古屋市中村区平池町4-60-6 TEL:052-564-6120 9時～17時

URL:<https://iccs.aichi-u.ac.jp> Email:iccs-event@m1.aichi-u.ac.jp



登壇者プロフィール (発言順)



林芳正(Yoshimasa Hayashi・ビデオメッセージのみ)

内閣官房長官、衆議院議員。東京大学法学部卒、ハーバード大学ケネディ行政大学院修了。1995年参議院議員初当選、通算5期再選。防衛大臣、内閣府特命担当大臣(経済財政政策)、農林水産大臣、文部科学大臣、外務大臣を歴任。自由民主党総裁選挙に2度立候補。「エズラ・F・ヴォーゲル ハーバード大名誉教授追悼イベント」実行委員長(2022年)。



シャーロット・アイケルズ(Charlotte Ikels)

Case Western Reserve University人類学名誉教授、ハーバード大学フェアバンク中国研究センター兼任研究員、エズラ・ヴォーゲル氏令夫人。Radcliffe College(ハーバード大学)卒、ハワイ大学にてPh.D(人類学)を取得。著書に、*Filial Piety: Practice and Discourse in Contemporary East Asia.* (ed.). (Stanford University Press)、*The Return of the God of Wealth: The Transition to a Market Economy in Urban China.* (Stanford University Press, Anthony Leeds Prize受賞)、*The Aging Experience: Diversity and Commonality Across Cultures.* (SAGE Publications, Richard A. Kalish Award受賞)など多数。



スティーヴン・ヴォーゲル(Steven Vogel)

カリフォルニア大学バークレー校政治学部教授、同政治経済プログラム学科長、エズラ・ヴォーゲル氏次男。プリンストン大学卒、カリフォルニア大学バークレー校でPh.D(政治学)を取得。専門は政治経済学。ジャパン・タイムズ記者、ハーバード大学助教授などを経て現職。大平正芳記念賞、外務大臣表彰を受賞。邦訳された著書に、『規則大国日本のジレンマ』(東洋経済新報社)、『日本経済のマーケットデザイン』(日本経済新聞出版社)など多数。代表作*Marketcraft: How Governments Make Markets Work*(Oxford University Press)は日本語版のほかにも中国語版にも翻訳される。



船橋洋一(Yoichi Funabashi)

公益財団法人国際文化会館グローバル・カウンシル・チェアマン、アジア・パシフィック・イニシアティブ創設者、英国国際戦略研究所評議員、元朝日新聞社主筆。東京大学教養学部卒、ハーバード大学ニーメンフェロー、ブルッキングス研究所特別招聘スカラーを歴任。ポーン・上田賞、石橋湛山賞、日本記者クラブ賞、サントリー学芸賞を受賞。著書に、『通貨烈烈』(朝日新聞社)、『同盟漂流』(岩波書店)、『カウントダウン・メルトダウン』(文藝春秋)、『宿命の子 安倍晋三政権クロニクル』(上下巻、文藝春秋)など多数。



デビッド・ヴォーゲル(David Vogel)

エズラ・ヴォーゲル氏長男。1958年に2歳の誕生日を迎える前に両親とともに来日。東京に1年間居住したのち、2年目は千葉県市川市の自然幼稚園に通っていた。その後、米国マサチューセッツ州クラーク大学で臨床心理学を学び、本年まで同州のメリマックカレッジ心理学部で教鞭を執った。ニューイングランド熱傷生存者会創設者・名誉会長、現在も法医学メンタルヘルスコンサルタントとして活躍中。



イブ・ヴォーゲル(Eve Vogel)

エズラ・ヴォーゲル氏長女。マサチューセッツ大学アマースト校環境地理学准教授。同校の前身であるマサチューセッツ農科大学第3代学長は北海道大学の前身となる札幌農学校の初代教頭ウィリアム・クラーク博士であった。イエール大学卒、オレゴン大学でPh.D(地理学)を取得。研究分野は社会環境システム、特に河川と電力システムの歴史、政策と制度の研究。学術ジャーナルに多数論文を発表すると同時に、環境保護や環境アセスメントの活動にも精力的に取り組む。



リチャード・ダイク(Richard Dyck)

ハーバード大学アジアセンター顧問、米日財団理事、日本産業パートナーズ(株)取締役。ハーバード大学でエズラ・ヴォーゲル教授に師事、半導体産業の研究でPh.Dを取得。ヴォーゲル教授最後の著書『日中関係史』(第7章)の共著者。ハーバード大学、オハイオ州立大学の助教授、日本貿易振興機構(JETRO)、笹川平和財団、日米友好基金の理事、TGK-Japan(株)のオーナー兼代表取締役を歴任。1999年に日本の内閣総理大臣より国際貿易への貢献により表彰を受ける。石橋湛山全集の英訳作業に取り組む。